

家族と家庭生活

TM

年 組 番 氏名

家族や地域の人と共に

学習の流れ

課題発見



解決の方法考案
・
計画実践



評価
反省



次への
課題

1 わたしたちの成長と家族

- 1 自分の幼児期を振り返ろう
- 2 幼児を観察しよう
- 3 幼児の遊びについて考えよう
- 4 いろいろな遊びとおもちゃ作り
- 5 幼児の成長について調べよう
- 6 幼児と家族や周囲の人びとについて考えよう

2 幼児と触れ合おう！〈選択〉

- 1 幼児のいる施設を訪問しよう
- 2 幼児の生活に役立つものを作ろう

3 わたしたちと家庭生活

- 1 家庭のはたらきや家族のつながり
- 2 地域に目を向けよう

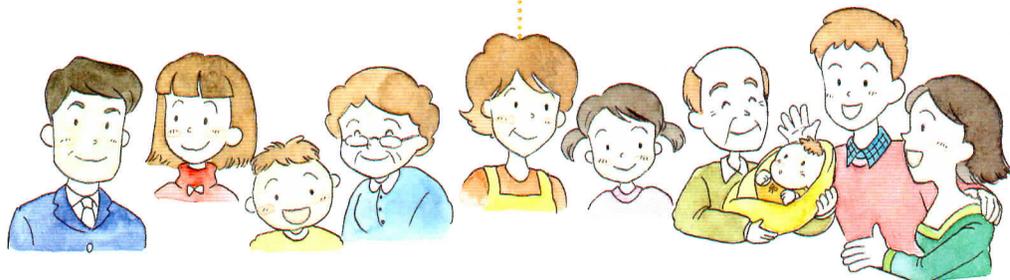
4 わたしたちの消費と環境

- 1 商品の選択と購入を考えよう
- 2 消費生活と環境について考えよう

5 家庭生活と地域のかかわり

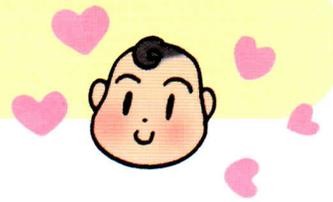
〈選択〉

- 1 地域にある施設を調べてみよう
- 2 環境や資源を考えて生活を工夫しよう



約束

- ① 授業開始のチャイムでさわやかにあいさつをしましょう。
- ② 自分の考えをきちんと持ち、友だちの考えにもじっと耳を澄まし、これからの家族や地域のかかわりについて積極的に考え、生活に活かしていきましょう。
- ③ 訪問・交流などで地域へ出ていくときは、次のことに注意しましょう。
 - ・観察や実習などの目的をはっきりさせ、計画をしっかりとてて行きましょう。
 - ・行き帰りの交通や幼児・高齢者の方への安全に十分配慮しましょう。
 - ・あいさつやことば使い、幼児や高齢者の方の目の高さで話すことなどに配慮し、相手の立場になってかかわり、共に楽しみましょう。
- ④ 実習は持ち物・服装を整え、安全面・衛生面に十分に配慮し、後片づけまできちんと行いましょう。
- ⑤ 製作物はこころを込めて作り、丁寧に、能率良く仕上げ、大切にしましょう。
- ⑥ 授業の終わりは、その時間や活動を見返し、次に活かしましょう。さわやかな終わりにしましょう。



1 自分の幼児期を振り返ろう。

- 1 自分の生まれた頃の様子や幼い頃のエピソードなどを、アルバムを見たり、家族や身のまわりの人に語ってもらい、わかる範囲で調べてみよう。

※生徒個人のプライバシーに十分配慮する。

わたし () の成長アルバム			
出生時	生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日、 _____ 時頃 身長 _____ cm 体重 _____ g その他 _____	初めのこと	*ことばを発した… _____ 歳頃 *歩けた…………… _____ 歳 _____ ヶ月頃 *歯が生えた…………… _____ 歳 _____ ヶ月頃
名前の由来	*自分の名前はどのような願いでつけられたのだろう。 *小さい頃は何と呼ばれていたのかな? …… ()		
幼い頃のエピソードなど	*病気やけがにまつわるエピソード、周囲を困らせたことなど ※調べることを通して、自分の成長や今の生活が、家族やそれにかわる人々に支えられてきたことに気付かせたい。 *好きだった遊びやおもちゃ、アニメのキャラクターなど ※これから学習する幼児期の遊びに対する興味関心を持たせたい。 *自分の成長を支えてくれた人はだれかな?		

感想

※生徒が自分で記入したあと家の人にも手紙で上記の項目のことを書いてもらい、それを読ませて記入させると感動が深まる。

🌟人の一生の区分 () にことばを入れてみよう。

(乳児) 期	(幼児) 期	小学校・中学校	青年期・壮年期	(高齢) 期		
0歳	1歳	6歳	15歳	20歳	50歳	60歳

3 幼児の遊びについて考えよう。



1 私達は幼い頃どんな遊びをしていたらう。

(1) 自分の幼児期を思い出して書いてみよう。

野 外		室 内	
・ブランコ	・なわとび	・ぬり絵	・人形
・三輪車	◎鬼ごっこ	・折り紙	・ブロック
・すべり台	◎シーソー	◎ままごと	・積み木
・砂遊び	・虫とり など	・絵本	・粘土細工 など

(2) 今の幼児はどんな遊びをしているらう。また、昔はどんな遊びをしていたのらう。調べて、上の の中に書き加えてみよう。 ※ここでP.15のチャレンジを活用してもよい。

(3) 上の遊びの中で、友達とかかわりながら遊ぶものに○印をしてみよう。
※同じ遊びでも年齢により一人遊びから集団での遊びへと変わる。



2 幼児の遊びは何のためにあるのらう。自分の考えを書いてみよう。

※ここでは遊びは単に楽しむためだけのものではないことに気付き、遊びに着目できればよい。

〈幼児にとっては遊びそのものが生活で、遊びを通して成長・発達する。〉

3 幼児期の遊びはどんな能力の発達や育成を促すのらう。例のように線で結んでみよう。

例 積み木

ボール遊び

絵 本

おままごと

あやとり

砂遊び

※一線だけに限らず、年齢が増すにしたがって、育つ能力もふえていく。

- ・運動能力の発達や健康の増進 ※多く出た場合は根拠が言えればよい。
- ・ことばの発達
- ・気持ちの安定や豊かな感情（こころ）の育成
- ・社会性（ルールを守る自制心や協調性）の発達
- ・考える力（思考力・創造力・想像力・判断力など）の発達

（他にも巧み性や表現力など、さまざまな能力が考えられる。）

上5つ以外に能力を書きたして線で結んでもよい。

他の遊びも書き加えて結んでみるとよい。

確認しよう

- ① 幼児にとって遊びは（生活）そのものである。遊びの中で感覚や運動機能が刺激を受け、さまざまな（能力）を発達させていくことができる。
- ② 幼児期のはじめは（大人）との遊びや一人遊びが多いが、しだいに（友だち）との遊びを喜ぶようになる。人とかわることによって、（社会）のルールを身に付けたり、人を（思いやる）こころを持ち、人に（協力）できるようになる。
- ③ 思いきり遊ぶことで（不安）や緊張が解消され、精神の（安定）とも結びつく。

キーワード

協力 生活 思いやる 大人 友だち 能力 安定 不安 社会

生活習慣を身につける

※個人差があることを伝える。

1 基本的な生活習慣が身につく順番を書こう。

食事の習慣

a はしを使う



3

b 手つかみで食べる



1

c スプーンで食べる



2

排泄の習慣

a おむつに排泄をする



1

b 誰かの手をかりて排泄できる



2

c 一人で便所に行き排泄の始末をする



3

睡眠の習慣

a 1日に1回昼寝をする



2

b 一人で寝起きするようになる



3

c 一日の大半を寝て過ごす



1

脱ぎ着の習慣

a すわって自分でくつをはける



2

b 立ったまま、左右まちがえずに一人でくつをはける



3

c くつをはかせてもらう



1

清潔の習慣

a 手を洗う



1

b 髪をとかす



3

c ぶくぶく・うがい・歯磨きができる



2

2 次は幼児が身につける社会的な生活習慣です。

あなたがついやってしまっていることで、幼児がまねすると困ることはありませんか？

安全の習慣



- 左右を見て、横断歩道をわたる。
- 車の直前・直後を横切らない。

義務と責任



きまりを守る



- 公共物を大切にする。
- ごみはごみ箱に入れる。

対人関係



- 順番を守る。
- あいさつをする。

生徒に今現在できていないものに✓をつけさせるとよい。

3 生活習慣を身につけさせるためには、周囲はどんなことに気をつけたらいいのだろう。幼児の特徴から考えてみよう。

- ★周囲の人々のまねをする。→ (**手本**) を示す。
- ★自我が芽生えてくる。→ 一人でできるような (**環境**) を作り、失敗してもあたたかく (**見守る**) 。
- ★発達段階に個人差がある。→ 幼児に応じて援助し、うまくできたら (**ほめる**) 。